追悼文

松浦多聞先生を偲ぶ

理学部　菅　隆幸

名誉教授松浦多聞先生が昨年11月28日，急性心不全のため83歳の生涯を閉じられた。

先生は1906年（明治39年）11月20日岡山県笠岡市に生まれられ，1932年広島文理科大学化学科を第一期生として卒業，広島文理大，海軍兵学校，広島高等師範学校で教鞭をとられ，1951年広島大学教授，1970年停年退官，名誉教授となられた。この間，理学部長，評議員の要職にあって広大の発展に尽くされた。停年退官後は鈴が峰女子短期大学教授，学長を1986年まで務められた。

先生は，54年もの長きにわたり教職にあって，勤厳なうちに思いやり深い人柄と優れた指導力をもって幾多の後進を育成された。一方，先生は終始一貫して植物化学成分，とりわけテルペン化合物の化学の研究に専念され，その成果は国の内外で高く評価されている。

先生は常に「他人から敬愛される人間であれ」とお教えくださり，率先して自らを磨かれた。また，晩年には「望小達大」を座右の銘とされ，折にふれてその言葉をうかがわせていただいた。そのお言葉ももはや先生のお口からはお聞きできなくなった。先生の教訓を堅く胸に抱き，一層精進することを誓いたい。

松浦先生，安らかに眠ってください。

故田崎秀夫先生を偲んで

総合科学部　檜原忠幹

名誉教授田崎秀夫先生は，去る平成元年12月19日91歳の天寿を全うされました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

先生は昭和３年京都大学理学部物理学科をご卒業後，昭和８年広島文理科大学助教授，21年同教授となり，昭和36年に停年退官を迎えられるまで，約30年にわたり広島大学において研究・教育に専念され，大学の充実と発展に貢献されました。ご研究は主にX線および電子線による結晶構造解析であり，中でも1940年当時新しい手法として注目されていたフーリエ解析法を，いち早くメタ硼酸の結晶構造の決定に適用した研究は，今日の結晶解析法の先駆的仕事として知られています。

先生は温厚篤実な抱擁力の大きいお人柄であり，何事にも動ずることなく，ご出身地の会津武士をほうふつさせる風格をお持ちでした。ご退官後，大学紛争の最中，大阪電気通信大学の学長を勤められましたが，紛争の解決には先生のお人柄が存分に生き，「さすが先生だ」と多くの者をうなずかせたことでした。先生は将棋が大変お好きで，なかなかの実力をお持ちでした。素早い判断で，てきぱきと駒を動かされていたお姿が，今でも目に浮かびます。

先生の温かいお人柄を偲び，心からご冥福をお祈り申し上げます。